

高値は6月の14.5であった。大洲東側は7月が最高値の11.5であった。和田は5月が最高値の11.8であったが、4月から8月まで11台で推移し、明確なピークはなかった。

調査地点間で肥満度を比較すると、ピークの値は川口前、区4号が最も高く、次いで瀬方南側、揚汐で、地島南がそれらに比較してやや低く、最も低かったのは和田と大洲東側であった。大洲東側はピーク時期以外の月では調査地点中で最も低かった。

平成12年と比較すると、川口前は4月、7月が低く6月が高かった。瀬方南側は4、5月に低かったがその後はほぼ同様に推移し、地島南、区4号は調査月によりやや低めの月もあるがほぼ同様に、揚汐と和田はほぼ同じであった。大洲東側はやや低めで推移した。

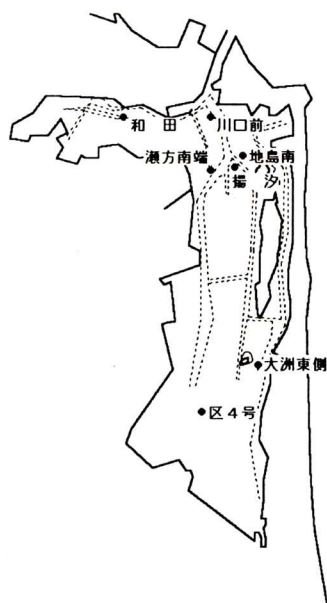


図1 調査地点

表1 成熟度の判定基準

| 指数 | 判定基準 |
|----|-----------------------------------|
| 0 | 生殖巣部分が萎縮し、雌雄が判断できないもの |
| 1 | 生殖巣が肝臓の一部を覆っているもの |
| 2 | 生殖巣は肝臓の一部を覆っているが、その断面から生殖素がにじみ出ない |
| 3 | 生殖巣が十分に発達し、その切断面から生殖素がにじみ出る |